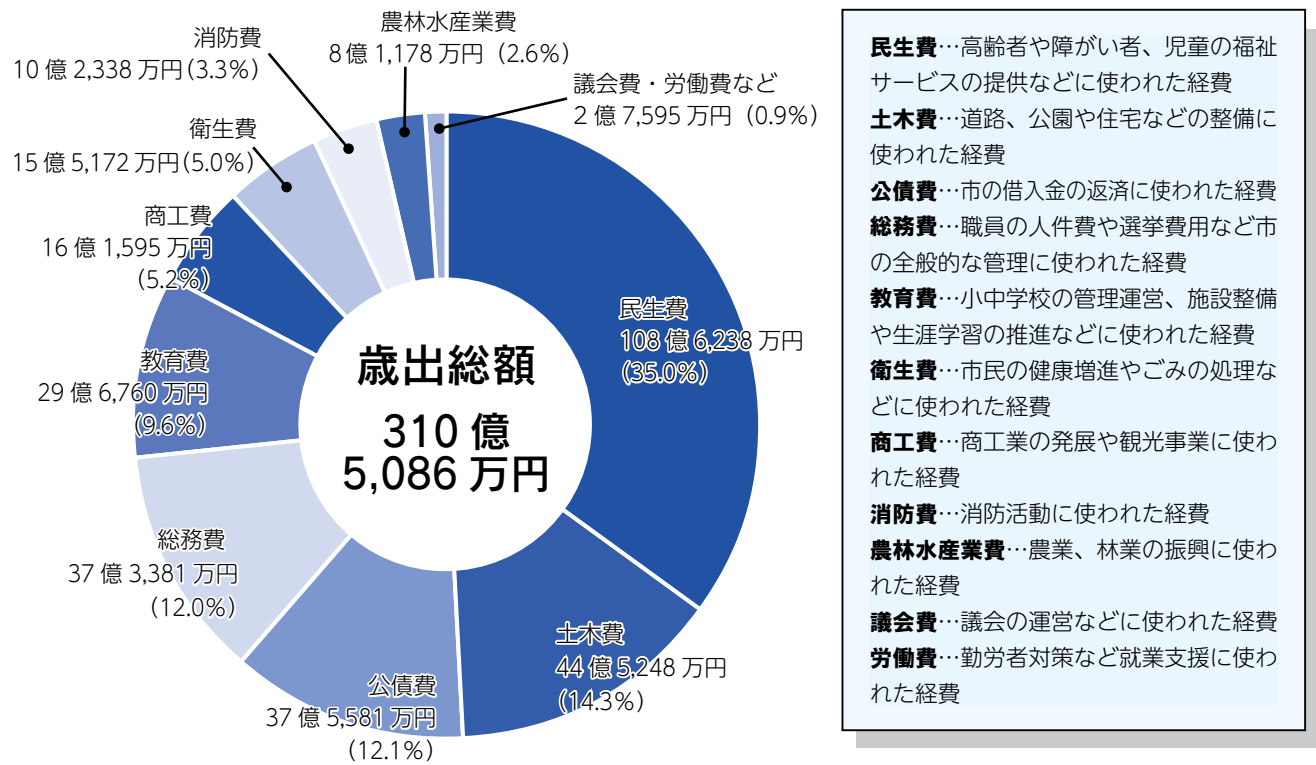


一般会計歳出

土木費は、一重山2号線の整備事業を進めていることなどにより、前年度より23.2%増で8億3,701万円増加しました。総務費は、定額減税補足給付金給付事業（調整額給付）や旧更埴庁舎の解体が前年度で終了したことなどにより、9.9%減で4億1,038万円減少しました。教育費は、更埴文化会館や五加小学校の施設整備事業が前年度で終了したことなどにより、16.6%減で5億8,960万円減少しました。



令和7年度に実施した子育て関連事業の主な経費

- ▶ **子どもの福祉医療費給付金の窓口無料化事業** 1億5,024万円 (民生費)
これまでも子どもの医療費窓口負担分は500円としていたところ、さらなる子育て世帯の経済的な負担軽減のため、令和7年8月診療分から窓口負担分を全額無料化しました。
- ▶ **保育園改築事業** 2億3,020万円 (民生費)
五加保育園未満児室の増築、戸倉保育園改築の設計や屋代保育園の建て替えにともなう旧園舎の解体など、保育施設の整備を実施しました。
- ▶ **学校給食食材高騰分支援事業** 3,957万円 (教育費)
保護者の負担を増やすことなく安定的な給食を提供するため、高騰する食材費の増額分を公費により支援しました。

市民1人当たりに使われたお金は 53万494円



* 令和8年1月1日現在の住民基本台帳人口5万8,532人で算出

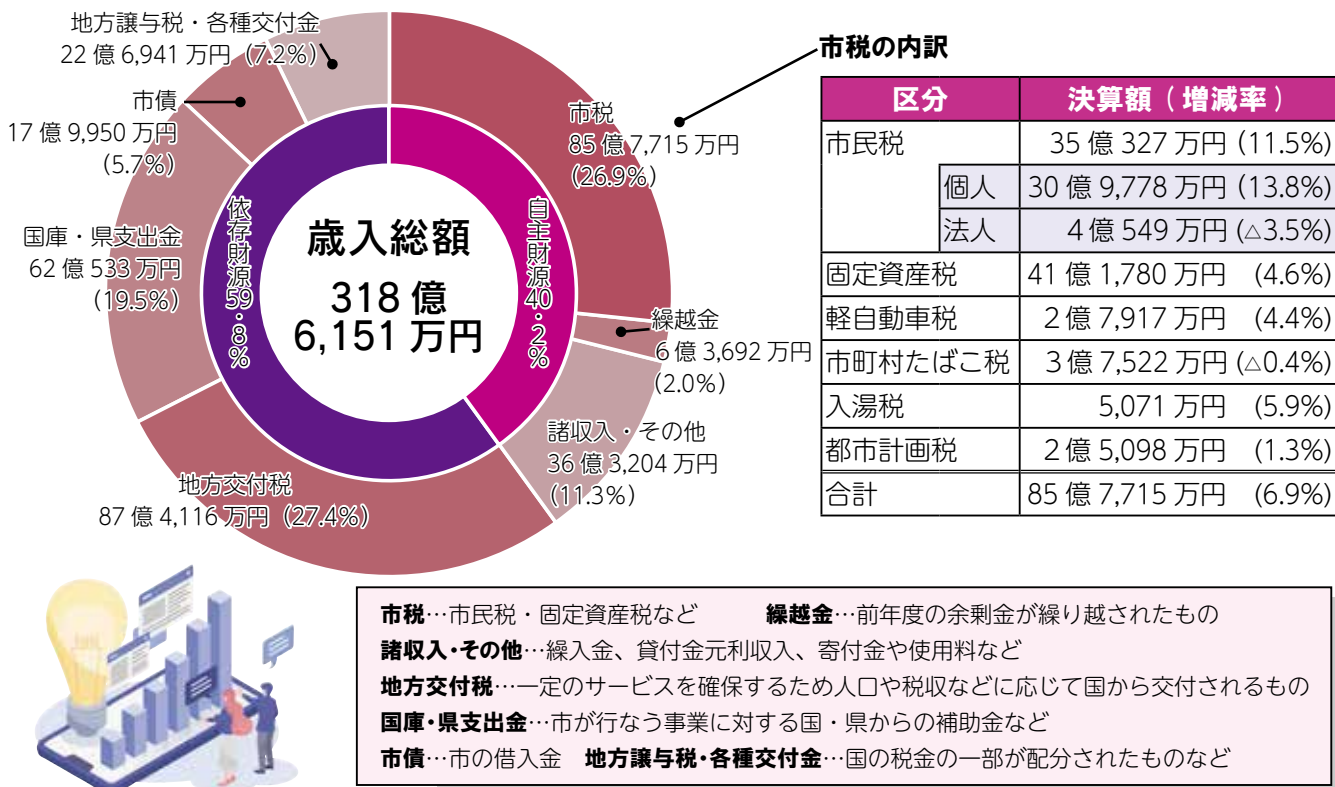
令和7年度の 決算をお知らせします

財政課 (内線4154)

一般会計の歳入決算総額は、318億6,151万8,990円で前年度比1.2%の減、歳出決算総額は、310億5,085万9,740円で前年度比0.2%の減となりました。
翌年度への繰越財源を除いた実質収支額は、7億196万7,250円の黒字となりました。

一般会計歳入

市税は、個人住民税のほか、これまで行なってきた企業誘致などの成果により固定資産税が増収となり、全体で前年度より6.9%増で5億5,661万円増加しました。
地方交付税のうち普通交付税は、子ども子育て費などの増額により、2.0%増で1億5,600万円増加しました。
市債は、主に旧更埴庁舎の解体・更埴文化会館の改修・屋代保育園の改築・五加小学校の施設整備などが前年度で終了したことより、借入額が減少し、11.8%減で2億4,040万円減少しました。



特別会計・企業会計決算

特定の事業を行なうために一般会計と分けて設置される特別会計には、国民健康保険、介護保険と後期高齢者医療の各会計があります。他に企業会計として水道事業と下水道事業があります。

特別会計	歳入	歳出	差引額
国民健康保険特別会計	51億2,244万円	50億8,023万円	4,221万円
介護保険特別会計	56億7,797万円	56億1,686万円	6,111万円
後期高齢者医療特別会計	11億2,065万円	10億9,430万円	2,635万円

企業会計		収入	支出	差引額
水道事業会計	収益の収支（消費税抜き）	1 億 6,990 万円	1 億 6,706 万円	（純利益） 284 万円
	資本の収支（消費税込み）	2 億 2,416 万円	2 億 8,521 万円	△ 6,105 万円
下水道事業会計	収益の収支（消費税抜き）	30 億 6,875 万円	23 億 8,051 万円	（純利益） 6 億 8,825 万円
	資本の収支（消費税込み）	6 億 190 万円	21 億 2,538 万円	△ 15 億 2,348 万円

- * 収益的収支…料金収入や施設の維持管理費など、毎年度の経営に関する収入と支出
- * 資本的収支…施設の整備・更新など、将来の経営基盤に関する収入と支出
- * 金額は1万円未満の数を四捨五入しています。
- * 水道・下水道事業会計の資本的収支の不足額は、当年度分消費税資本的収支調整額などの補てん財源により補てんしました。

基金残高（一般会計）

128 億 4,695 万円

基金は、一般家庭の貯金にあたるもので、支出目的に沿った事業や臨時の出費、財源不足が見込まれる場合に切り崩します。令和 7 年度は、「その他特定目的基金」のうち、「魅力あるまちづくり基金」から企業立地推進事業などへ 4 億 688 万円、「公共施設等総合管理基金」から旧屋代保育園の解体などへ 1 億 4,979 万円など、合計約 9 億 3,178 万円を活用しました。一般会計全体の基金は、「財政調整基金(*)」を取り崩さなかったことや前年度の決算剰余金などの積立により、約 1 億 397 万円増加しました。

*年度間の財源の不均衡を調整するための基金。税収の減少や不測の支出増加による財源不足が生じた際に切り崩して補填します。

市債残高（一般会計）

246 億 6,707 万円

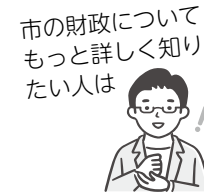
市債残高は、市役所新庁舎建設事業や令和元年東日本台風災害の復旧事業などで借り入れた市債の元金償還が進み、約 18 億円減少しました。令和 7 年度の市債借入額は、旧更埴庁舎の解体・更埴文化会館の改修・屋代保育園の改築・五加小学校の施設整備の終了などにともなう借入額の減少により、約 2.4 億円減少しました。
*一般会計などの市債残高のうち、償還額の約 73%が国からの交付税で賄われるため、実質的な地方債残高は66億8,000万円です。

会計ごとの市債残高

会計	令和 7 年度末
一般会計	246 億 6,707 万円
水道事業会計	7 億 3,383 万円
下水道事業会計	169 億 78 万円

今後の財政運営

市の基金は、地域福祉センター改修、旧屋代保育園舎・力石支館の解体、商工業振興事業助成金などに活用したものの、財政調整基金の切り崩しをしなかったことや前年度の決算剰余金などの積立により、令和 7 年度決算では、残高(貯金)を増やすことができました。また、令和元年東日本台風災害で借り入れた市債の償還を行なっているため、しばらくの間、公債費は高い水準が続きますが、市債残高は順調に減少しています。大型事業が控えるなか、安定的な財政運営を可能としていくため、今後も経費を抑制することと、健全な行財政運営に努めていきます。詳細は、市ホームページの決算報告を確認してください。



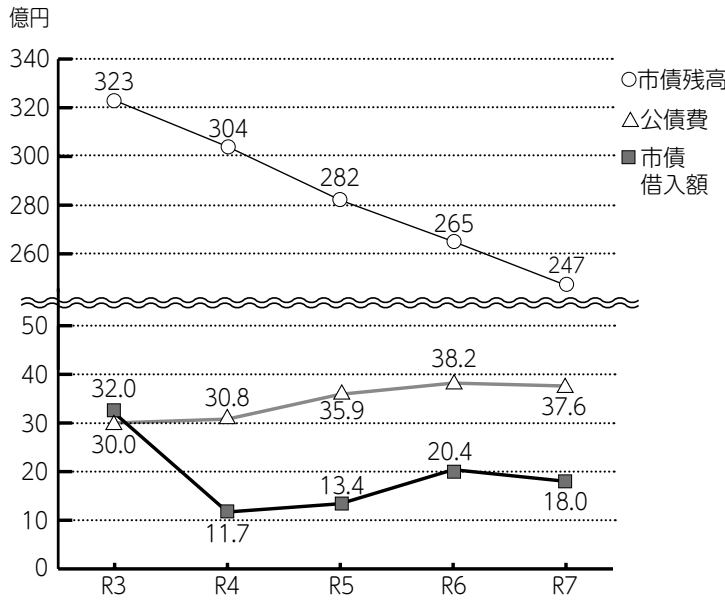
市生涯学習出前講座で財政状況を説明します

市生涯学習出前講座に「市の財政について」という出張講座があります。職員が直接出向いて市の財政状況を説明しますので、希望する団体は、申請書を生涯学習課に提出してください。

会計ごとの基金残高

会計	令和 7 年度末	令和 6 年度末
一般会計	128 億 4,695 万円	127 億 4,298 万円
(内訳) 財政調整基金	48 億 3,971 万円	43 億 2,410 万円
減債基金	4 億 8,885 万円	6 億 494 万円
その他特定目的基金	67 億 6,130 万円	70 億 5,832 万円
土地開発基金	6 億 5,192 万円	6 億 5,067 万円
奨学基金	1 億 517 万円	1 億 495 万円
国民健康保険特別会計	6 億 8,367 万円	6 億 8,205 万円
介護保険特別会計	15 億 6,918 万円	15 億 3,176 万円

市債の残高と借入額、公債費の推移（一般会計）



▲決算報告はこちら



▲市生涯学習出前講座について

指標からみる市の財政状況



標準財政規模

182 億 150 万 4,000 円

地方公共団体が自由に使い道を選択できる一般財源(市税や普通交付税など)の標準規模を示すものです。令和 7 年度は、主に市税が増加したことから、前年度より約 6 億 4,353 万円大きくなりました。

財政力指数

0.502

地方自治体が標準的な行政サービスを行なうために必要な費用に対し、自前の税収などでどれだけまかなえるかを示す指標で、3 か年の平均で表します。財政力指数が高いほど自主財源の割合が高く、財政力が強い団体となります。指数が 1 を超える団体には、普通交付税は交付されません。前年度から 0.002 悪化しましたが、大きな変化はありませんでした。

経常収支比率

94.0%

市税・普通交付税などの経常的に得られる一般財源が、継続的な事業や公共施設の維持管理などの経常経費にどの程度充当されているかを表す比率です。比率が高いほど柔軟な財政運営がしにくくなり、自由に使える財源が少ないことになります。令和 7 年度は、歳入面で市税や普通交付税が増加したこと、歳出面で市債の償還額が減少したことなどにより 1.2%改善しました。

健全化判断比率

指標名	健全化判断比率 (千曲市)	早期健全化基準 (国の基準)
実質赤字比率	—	12.58%
連結実質赤字比率	—	17.58%
実質公債費比率	11.8%	25.00%
将来負担比率	0.5%	350.00%

実質赤字比率…一般会計などに生じている赤字の大きさを財政規模に対する割合で表したもの
連結実質赤字比率…地方公共団体の全会計に生じている赤字の大きさを財政規模に対する割合で表したもの
実質公債費比率…借入金(地方債)の返済額(公債費)の大きさを財政規模に対する割合で表したもの(3か年平均で表す)
将来負担比率…借入金(地方債)など現在抱えている負債の大きさを財政規模に対する割合で表したもの

資金不足比率

企業会計の名称	資金不足比率 (千曲市)	経営健全化基準 (国の基準)
水道事業会計	—	20.0%
下水道事業会計	—	